

闘わなかった？ 「闘病日記」

本当に闘った人こそが
「闘病日記」を
書くのでは？



ゆず親父

〈7月1日〉

2012年（平成24年）7月1日、この日は私にとっては忘れられない日になりました。...って本人は何一つ、全く憶えていません。自宅の納屋の2階から落下し後頭部を強打しました。納屋の2階と言っても屋根裏で、木の梯子で上り下りします。この日は日曜日で朝早くから蓮田(蓮花)の手入れへ...、今年は例年になく外来苔「アゾラ」の侵略？に悩まされ、その除去作業関連の器具を探しにきたようですが、まさかの不慮の事故？どうなったんだろう？何十分経っても戻らない私に「またサボってんちゃうの？」とカミサンが...そして隣に住む長女が様子を見に...そこで何故か現場から5、6メートル離れたトラクターを停めている所に身を隠すように出血した私が倒れていたのを発見！したそうです（末期の猫か？）アワワ、アワワで驚き泣きながら救急車をすぐ呼んでくれ、一番近い大学付属病院へ搬送緊急手術...幸いなのかどうか？三途の川の舟代6文銭の持ち合わせがなかったので、あの名曲「帰って来たヨッパライ」の詩の如く『ほなら、出て行け〜』でこの世に戻されました。実際の話、あと30分遅ければ良くても植物状態になっていたかも...だったそうです。

〈7月某日〉

「気が付けば病院のベッドの上」「何で自分がここにいるの？」...よく映画やテレビドラマでありがちなシーンですが...なんてそんなことも全く憶えていません。一応手術は成功し意識も少しづつ戻ってはきたものの、「元気になったら見れば...」と娘が撮っていた動画、最近になりようやく見て見ようと思いましたが、それはそれはこれが自分だったのか？と思うほどの変わりように驚きました。ベッドに座ることもおろか、カミサンや子供達の大声での呼びかけにもなんとか必死の思いで（だろう）応えようとしてる...それが映し出されてる...「何故に私がこんな目に!？」の始まりです。

〈7月1日〉～〈8月21日〉

確認のために言っておきますが、この期間はほとんど記憶がありません。家族から聞いた話と微かな記憶を

紐解いて書いています。

運命の日から、地獄の入り口受付も拝見することなく、この世に戻されたのですが、自分にとっては今までの

生活とは一変し、辛くて苦しい入院生活が始まった訳です。闘病生活とは恥ずかしくて書けません、それでも

自分なりには頑張ってきたところもありましたよ・・・大学付属病院ではベッドから落下しないように紐で括りつけ

られたり、鼻から栄養補給などのための管を引きぬかぬように手袋をはめさせられたり、そしてベッドと体が

離れないように固定されたベストのようなものを着せられたり、そんな設備があるのですから、当然？家族

周りにご迷惑をおかけしたんでしょうが...さらにはやっぱり男であります。看護婦さんの優しさに触れると

(看護婦さんは普通に仕事をこなしてるだけですが)「エッ！？私にだけ...」と大きな勘違いをし、それに応え

なくてほと、あれこれご迷惑(犯罪じゃないよ！?)をかけたらしいんですが、記憶にございません。・・・

ICUをでて一般病棟になり、リハビリも始まった。この頃私は関わっていただいた病院スタッフの容姿を見て

誰か芸能人、有名人に似てるとその愛称で呼んでいました。何故かマイブームなんでしょうかね～・・・？

療法士の先生で他県から研修にきていた若者、彼が芸人さんの宮川大輔君に似ていて、黒ブチメガネで

私は「OH～大ちゃん」と早速呼んでました。本名も憶えてはないのですが、この病院で一番記憶に残って

います・・・元気でやってるかな？大ちゃん、私のことなんかもう憶えてはないだろうな～・・・そりゃそうだ！

さて転院もそろそろ決まったある日のこと、婦長...師長(今はこうか!)らしき人が私を病室から連れ出し、

ナースステーションの空いてる席に強制連行(失礼な?)された。「ここなら、若い美人さんの看護婦さんが

たくさんいて、話し相手になってくれるから、しばらく座っていたら」って、これって気遣い、優

しき、リハビリ、

それとも報復（なんじゃそれ？）・・・ナースさんたちも「あれ？どうしたん〇〇さんこんなとこ座って？」と

笑顔で対応してくれましたが、さすがにお忙しくされながらの話し相手をしてくれる様子に、私は「もう勘弁して

、部屋に返して！」と師長に泣きつくほど仕事の邪魔をし申し訳なく思った日でした。

〈8月22日〉

約2ヶ月近くお世話になった大学付属病院を出所（網走ではありません）、車で約30分のリハビリ病院への

転院の日、介護タクシーで向かったのですが、車に乗った途端にリバース（嘔吐）してしまいました。何故に？

入院生活でなかったことで驚きでしたが、まさにここから目まい、ふらつきに加えて嘔吐の始まりだったのです。

ここは総合リハビリテーションの内の病院で、名の通りリハビリメインでの治療を行う病院であります。最初の

何日か個室からの多難が予感される新たな入院生活の始まりです。

リハビリテーション＝機能回復訓練、単に身体の関節の柔軟性や運動機能部分のマッサージなどで補い

回復や、歩行訓練だけでなく、トイレ、風呂など日常不可欠な作業訓練や対話などでコミュニケーションを

計る心のケアまでを含めた訓練療法である。

理学療法（一般的に略語でPT）作業療法（OT）言語療法（ST）と大きく3つに分類される・・・

このリハビリ病院にも男女問わず、多くの若い療法士の先生と、もちろん病院ですからドクターと看護師さん

ほぼ普通の病院ですが、リハビリ中心の治療を行っています。看護師・剣フリークのケンコバ君、PT万田君、

OT後田君、STウル林さん、そして主治医のドクターMさん、チームでフォローしてくれます。（名前は仮名）

〈9月某日〉

個室から4人部屋・・・気が重い・・・看護師長に頼み込んで2人部屋に・・・さらにもっと気が重い部屋でした。

リバースの頻度も多くなる。後々気づくが何か環境の大きな変化でリバースしている、まるで子供・・・？

もちろん優しいナースさんもたくさん！いて、朝リバースして朝食が食べれない時もカミサンが前夜に持って

来てくれていた林檎や梨などの果物を「〇〇さん林檎かなんかある？剥いてきてあげるわ～」ラップに包み

「楽になったら食べ～や！何か食べないと薬も飲めないし、元気にもなれへんよ！！」と山田（仮名）さん。

冷蔵庫にストックしてくれました・・・長期入院の経験のない自分には本当にありがたかったです。

さらに

「そう何度も部屋替えは出来んよ〜！」と師長に釘を刺されていたのですが、ある日その師長から「〇〇さん、これはこっちからのお願いだから」とまた違う4人部屋に変えてくれた。でもこれが良かったのか

周りの患者さん三人ともとても話しやすかったのか？リバーズも減って来た・・・師長、心遣い感謝です。

本格的闘病・・・？

〈10月某日〉

さてさてリハビリも本格的に闘病に・・・？とは言え、いつ突然襲ってくる厄介なりバースや持ち前？の

「サボリ病」で担当の療法士の先生方を困らせるのでありますが、とにかくスタッフはみんな自分の娘や

息子ほどの年齢なので、つついPTの万田君やOTの後田君なんかには偉そうに「訓練室行きたくない！

ここでやってくれ・・・」なんてわがまま言い放題。STのウル林さんはそんな私を察してか、「散歩行こう！」と

病院の中庭、外周と車椅子と共に誘い出してくれたり、どうしようもない面倒くさい患者だったんだろうな・・・

ごめんなさいね！・・・毎日朝食前に二種類の漢方薬が出されたのですが、これがなんとも劇的に？不味いのですが、それでも決死の覚悟でなんとか飲んではいたが、ある朝また戻して食事も出来ない時、

漢方もポケットに入れていたのもスッカリ忘れたままであくる日ベッドの上へ落としたのをナースの川林さん

(仮名)に見つかり、「あれ？これどうしたん？飲んでないの？」と「ヤバ～これ怒られるわ～」と覚悟？して

「だってこれ不味いもん」と正直にぶちまけました。すると川林さんは意外にも「そうやろう、不味いやろう！

先生にチョット聞いとってあげるわ」の答え・・・そしてその日のうちに「もう明日から飲まなくていいんやて、

だから出さないからね」これって怪我の功名なのかな？さらに自販機でコーヒーを飲もうと小銭を入れようと

した時に落とし、それを拾おうとして車椅子を前かがみにした際、バランスを崩し前頭部から車椅子ごと

転倒・・・もがいてると勤務明けのナースIさんが運よく（本人は運悪くなのですが・・・）通りかかって、

ナースステーションまで連れて行ってくれた。大きなタンコブは出来たものの夜勤のナースさんの応急処置と

気分も悪くならず大事には至らなかった。それからはナースIさんは会うたびに「やっと帰れるとホッとして

いた時に、目の前で倒れないでくれる、知らんふり出来んやないの～」・・・とイヤミたっぷり言われました。



重大事件

〈11月23日〉

夕方、日勤の看護師さんたちが業務を終えようとするこの時間帯に突然「ジリジリジリ・・・」と非常ベル音と

「ウー、ウー火災発生！火災発生！只今火元解確認中！」と院内放送がけたたましく流れる・・・ナニナニ？

エ～ッ火災訓練？、そんなの聞いてないよっ！？・・・って、こんな時間帯におかしいでしょう・・・やはり

訓練でなくホンマもんでした。看護師のケンコバ君が「〇〇さん、火事やで！、車椅子でここから出て」と

寒いベランダ（避難通路）へ、「そっちへ出てあっちに行ったらHさんがいるから！」とケンコバ君・・・

Hさんに車椅子を押してもらい院内の避難場所へと・・・11月の終わりかけの日が落ちた夕刻の寒さと

いつまでも鳴り響く火災放送で一気に体調が悪くなり、リバースモード。他の避難してきてる患者さん等に

迷惑かけてはいけないと思い少し離れ隅っこに、そこに顔馴染のST療法士の谷崎（仮名）さんが、「これ

使って！」と私の口にあててくれた。・・・ポケットティッシュ、ビニール袋のまま・・・気持ちはとても嬉しかった。

その後ケンコバ君が大きなビニール袋を持って来て、ここは寒いし騒がしいのでと、PTの訓練室まで移動し

暖房と毛布で横にならせてもらった。この日は孫と娘とカミサンで夕方に来てくれる予定で、着いたものの

病院方向へ入る道で警察に止められ、近くの郵便局の駐車場に止めさせられ歩いて病院へ移動、周囲は

たくさんの消防車、救急車が待機で「何があったん？」と慌てて何とか院内へ、病室や避難場所など探せど

探せど私の姿がなく、ようやく訓練室で横になってる私を見つけだした。災自体はどうやら地下の調理場に

入っていた業者の車が燃えただけで、病院には大きな被害、けが人もなく収まった。今日は休みの主治医

M先生は「病院が爆発して、何人もけが人が救急車で・・・」と電話があり急いで来たとか・・・なんだかな～？

さて、ようやく騒ぎもおさまり、孫もお腹が空いてるだろうとみんな家に帰らせ、自分も病室に戻る。そこで

ケンコバ君が気遣い察してくれたのか「今晚一番、個室でゆっくり寝たらと」移動させてくれた。

その日の10時頃、なんとほか弁を買ってカミサンが「今夜はここで寝るよ！」と再度来てくれた。

それだけで

嬉しくて感謝なのに「一人じゃないんだから！二人でゆっくり歩いていこうよ・・・」の言葉、もう

私はカミサンに

「泣いてええか～」・・・ジジイの涙？でした。あくる朝カミサンは7時半頃にいつも通り仕事に

向かったそうなの。

軽小？事件

〈12月某日〉

いつもの生理現象でトイレへと、「ここのドア、調子よくないよ！」と以前他の患者さんが言っていた。トイレは

障害者用で個室もカーテンや簡易ドア的な物のや、しっかりしたドアでも下にレールはない（車椅子の為の）

上部ひっかけタイプの引き戸タイプ、確かにこのドア最近開け閉めに引っ掛かりを感じて調子悪いなあ～

なんて思っていました。いざ入ってドアを閉めようとした時どうもきちんと閉らない・・・20センチくらい残して

止まってしまう。やはり・・・でも別に長居もすることないので、気にせず用を済まし出ようとドアを開ける・・・

「ガタン！」少し開けた瞬間、嫌な音...その後全く動かなくなり「オイオイ開かないよ～、出られないじゃん！」

で小パニック状態、こんなの時のナースコールなんだと納得？早速エマージェンシーコール、ナースのHさん

などすぐに3人が駆け付けてくれ状況説明、細身の主任のHさんはすぐさま狭い隙間から中へ・・・残りの

二人は「無理～ッ！」・・・？だそうです。何分間かあれこれと手は尽くしてくれましたが、ビクともせず断念、

結局メンテナンスの男の人を呼んでくれて、隣の個室から脚立で侵入？とりあえず車椅子が通る幅だけ

開けてくれ脱出成功・・・ほんの数分間でしたがHさんと個室でまさに「臭い仲」...にもならず、すぐ訓練室へ、

またもや予告？もなく突然のリバーズ...これまでよくよく考えると、周りで何か起こった時や、環境が自分に

とって悪くなった時にリバーズしてるような気がしてきました。なんだかな～・・・

〈12月後半〉

めまいもふらつきもそんなに変化ないし、リバーズもかなり減っては来たものの、いつ何が原因でやってくる

のかハッキリはしないままですが、この頃から土日にかけて自宅への一時帰宅が認められるように・・・

来年早々にも退院かな？と言う感じになってきました。ですけれど自宅は病院のようにあちこち患者仕様に

なってる訳ではありませんし、何かあってもすぐに看護師さんやドクターがケアしてくれることもありません。

そのために、また退院してもより安全に暮らしやすくの指導・指摘に担当療法士さんが実際に自宅に

足を

運んでくれてアドバイスや注意点を指南してもらえます。自宅での改良点の指摘や安全性の確認でOK

がでて

いよいよ退院に向けてのゴーサインがでるのです。

〈12月～1月〉

この頃、カミサンが休みの土日には一時帰宅してました。いろいろ不便がありますが、次女の旦那さんとか

家の中あちらこちらに「手すり」を付けてくれたり、とにかく少しでも安全に動けるように改善してくれ助けて

くれました。ただ日曜の夜、夕食後病院へ戻るいつもの経路の車中は正直「あ～また病院に帰るのか～」、

そう『サザエさん症候群』的な感じで落ち込んでいました。

2013年の新年もなんとか自宅で正月も迎えることが出来ました。年末年始、カミサンの仕事休みに合わせ

結構長期間自宅で過ごせましたが、まだ入院中の身で病院へは3日に一度一食だけでも顔をみせなければ

ならない状態（なんだかな～）で、病院食堂へ昼食をの日もありました。おそらく環境変化などから襲ってくる

リバースもかなり治まって来ましたが、住み慣れた自宅でさえですらも長い入院生活との周りの変化が

あってか？まだまだ前触れもなく突然に襲ってくる時が続いていました。

さて肝心のリハビリです...療法士の若い先生たちも色々この面倒くさいジジイにあれこれ考えプログラムを

考えてくれます。PTのチダイチこと万田君はおとなしく優しく接してくれ、細かい気配りまでしてくれます、

STのウル林さん、時にはオセロの対戦相手やらパズルなども、そしてこの本を書くキッカケにもなった日記を

パソコンで打つのに多大な力を貸してくれ、体調の悪い時は私は喋るだけでパソコンのキーボードへ・・・

（秘書かっ！）そしてOTのぶれない男、前向きの男の後田君、訓練に妥協や甘えは許さないのですが、

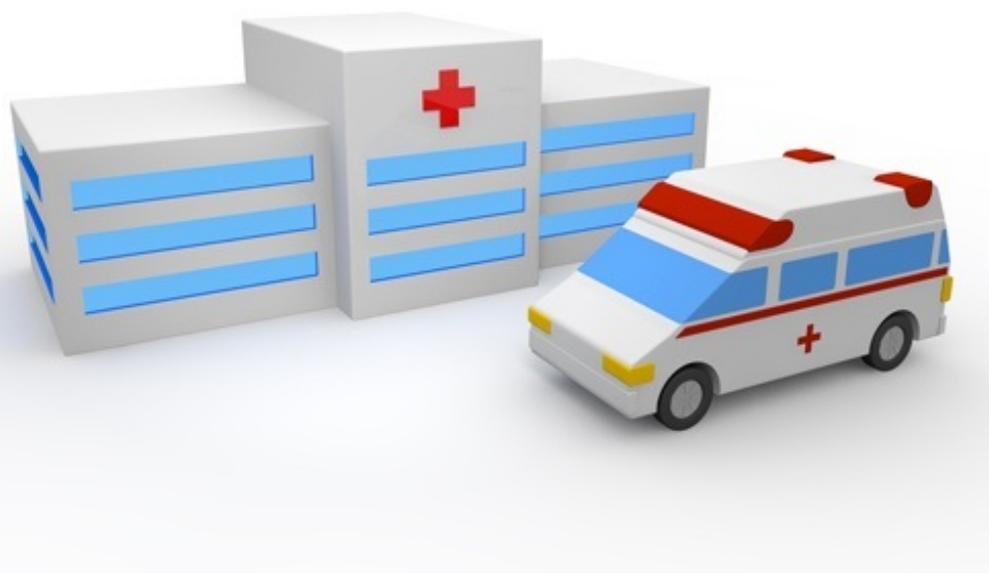
風船バレーや野球をやったり、ウレタン製の棒で、「真剣白刃（真剣じゃないじゃん！）取り」、私が切り手！

「いつでもかかって来なさい」で遠慮なく思い切り・・・訓練室にいた他の患者さんが「あの二人何してんの？」

で大笑いされたり、相変わらずであります。極めつけは後田君が後ろで支えながら立ってくれ、「エグザイル」

ならぬ「リハザイル」で〇〇トレインのオープニングを真似しグルグルと・・・同じ部屋にいたPT万田君の

目の前で披露、色んな意味で大喜びしてくれました。



退院

〈2013年1月17日〉

2012年の7月1日が人生の転機になってから手術→ICU→一般病棟→転院→リハビリ治療と6カ月少々・・・

苦しい辛い日々、あれこれ色々なことがありました。自分では頑張っ闘った！とは正直言えません。

「何で私だけがこんな目に？」そんな思いがいまだにあります。だけどカミサンは言います「あんたは生きてる

やん！もっともっと辛く苦しい思いしてる人、たくさんいてるよ、ずっ〜と、見てきたやろ！そんな人達に

比べたら」そんな言葉が重くのしかかります。完治しての退院、これから体調を整えてまた以前のように普段

通りの生活に頑張っ戻っていけば...とは違います。病院のように周りで助けてくれる、気にかけてくれる

人はいない時間が多くなり、まさにこれからが闘病本番です。それは病院で暮らしているより大変なことに

なるでしょう。入院生活で一番強く感じたのは、自分より人生の諸先輩方々が自分より重い病気や大きな

怪我をされていても、とにかく病室や廊下で懸命にリハビリ自主連をやられているのです。そんな姿を見て

驚きと尊敬です、グータラで弱い自分自身が本当に情けなく思えました。もうすぐ退院して2年です。

少しずつ、本当に少しずつですがよい方向に変化が見られてるような気もしますが、その度に新たな不安と焦りが生まれます。でもとりあえず普通にちゃんと生かさせてもらってます。

入院中、お見舞いに来て下さった方々、親戚、友人、仲間、同僚、上司、・・・本当にありがとうございました。

そして病院で仕事とは言えこんな厄介な面倒くさい患者に携わってくれたスタッフの皆さん、本当にありがとう

ございました。忘れません。そして家族と何よりも仕事終わりに家とは正反対の長い道のりを、毎日病院へ

寄ってくれたカミサン・・・退院後も何かと愛想つかれる思いをさせてしまい本当に申し訳ないと思っってます。

でも心から感謝しています。・・・次はちゃんとした「闘病日記」が書けるようにしなくちゃ！いやいやいや

入院はもういいや！とにかく健康で生かさせてもらえるだけ生き抜かなければネ！

●●様
退院おめでとうございます!!

